

# 母と子のにわ

—利用者のみなさまと母子医療センターをつなぐ—



発行  
地方独立行政法人大阪府立病院機構  
大阪府立母子保健総合医療センター

第20号

2008 Autumn

## 目次:

10歳以上の子どもたちが 楽しむ会	1
ボランティアコーディネーターを 配置しました	2
仕事紹介 保健師	3
がんばり屋さん	4
診療科紹介 整形外科	5
センターからの お知らせ	6

## 10歳以上の子どもたちが楽しむ会

センターでは、毎月、第3水曜日、10歳以上の子どもたちを対象に、夢中になって遊べる会を企画しています。板や金具を組み合わせてミニ・ピアノを作る、石を削ってペンダントを作るなど、年齢の高い子どもたちが真剣に取り組める内容を用意しています。

その日は、午後3時半頃になると、小学校高学年生、中学生、それ以上の年齢の高い子どもたちが、次々に4階にある会場に集まってきます。4階の病棟からはもちろん、5階の病棟からも、エレベータで降りてきます。大きな点滴ポールを押してきても、車イスに乗ってきてもOKです。会場には、製作を指導してくれる人が何人かいますが、病棟の看護師や家族は付き添いません。子どもたちは、皆で机を囲んで、それぞれ、自分のやり方で取り組みます。隣の子と相談しあったり手伝いあったりする子も、ただ黙々と手元に集中する子もいます。また、朝から楽しみにしてくる子も、面倒くさそうにしてくる子もいますが、やってみると、難しい仕組みに頭をひねりながら、ときにはピンセットを手に細かなパーツを貼りあわせたり、ときにはカナヅチでクギを打ったりと、皆、真剣そのものです。午後5時半までの2時間、子どもたちは、思い思いの時間を過ごし、「もっとやりたかったな」「親に自慢するわ」「お腹すいた…」などと感想を残して、満足そうな表情で病棟へ帰っていきます。



11月：那智黒石ペンダント作り

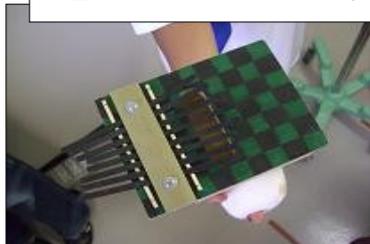
センターには、小学校低学年までの子どもたちがたくさん入院しています。絵本や玩具が並ぶプレイルームでは、毎日、保育士が紙芝居をしたり工作をしたりと楽しく遊べるよう工夫しており、小さな子どもたちで賑わいます。それと同じように、大きな子どもたちも、思いきり遊びに熱中できる時間や場所が必要です。月に1度ではありますが、子どもたちにとって、心から楽しめる機会になればと考えています。

最後に、子どもたちの力作をご紹介します。  
(ホスピタル・プレイ室 上田 素子)

那智黒石のペンダント  
石を削って形を整えた自信作です。



ミニ・ピアノ。  
鍵盤を指ではじくと音が出ます。



和紙のうちわ。  
キレイな色に染め上げました。



## ボランティア・コーディネーターを配置しました

今年度よりボランティア・コーディネーターを配置することになり、本年7月より経験豊かな土田輝美さんに来ていただき、院内で活躍するボランティアさんの支援、各種イベントの整理などすでにご活躍いただいています。みなさんよろしくお祈りします。

長年当センターではボランティアさんたちのおかげで明るい病院環境ができてきました。今年からはより一層患者さんやご家族にとって居心地のよい母子医療センターとなるように、ボランティアさんたちも気持ちよく活動してもらうために、職員としてコーディネーターに来ていただきました。

子ども病院の中でも「ボランティア・コーディネーター」という職員が活動している病院はまだまだ少ない中で、当センターも積極的に進めようと考えています。

母子医療センターのボランティア活動が目指しているのは、

1. さまざまな状態・病気で外来通院・入院療養しているお母さんや子どもさんたちのためのよりよい環境をつくることをお手伝いしてもらい、元気になってもらうこと
2. 地域のみなさんが新鮮な目で病院を見つめることで、よりよい病院になるために地域とのつながり役となること
3. ボランティアさんたち自身が外来通院・入院療養しているお母さんや子どもさんたちから元気をもらうこと

です。みんなが元気になって幸せになれるために、それぞれの得意なことを活かして、頑張っています。

ボランティア・コーディネーターの仕事は、

1. 院内のボランティアさんの活動と活動場所にあたる病棟などとの交通整理をすること
2. 新しくボランティアさんとして活動してもらう方のために、感染症のことやさまざまな心得について

の研修を開催・調整すること

3. クリスマス会や慰問など、院内各種イベントの整理・受付の手伝いをする
  4. ボランティア活動そのものについてボランティアさんや職員のなかでの啓蒙活動を促進すること
  5. その他
- という形になります。

9月11日には土田ボランティア・コーディネーターと、神奈川県立こども医療センターのボランティア・コーディネーター梶山祥子先生から、子ども病院のボランティア活動について、職員とボランティアさんたちが一緒に勉強する機会がありました。積極的に質問などもあり、有意義な時間になりました。

10月28日にはボランティアとして活動することに興味のあるみなさんに「ボランティア説明会」として集まっていたいただき、情報交換をする機会を設けました。周辺地域に住む多くの皆さんに集まっていただきました。

11月6日には、「ボランティア研修会」として、すでに活躍されているみなさんも含めて、感染症のことなどについて勉強しました。個人ボランティアとしてやってみたい、グループで活動してみたい、と思われる方が、どんどん増えてきました。

子どもたちをしっかりと守るためにも、レントゲンや感染症の血液検査を受け、保険にも加入して、研修をしっかりと終えてから、病院内で活動していただく予定です。

まだ赴任してから半年に満たないところですが、このように大車輪の活躍をしています土田ボランティア・コーディネーターの仕事に、ご期待、ご支援ください。

母子医療センター利用者の皆さんでも、職員の皆さんでも、「ボランティアしてみたい」という方は、企画調査室・土田までお問い合わせください。

(企画調査室 森 臨太郎)

### 病院ボランティア 募集中

あなたも母子医療センターでボランティアをしてみませんか。

興味のある方は、下記までお問い合わせ下さい。

大阪府立  
母子保健総合医療センター  
企画調査室 土田

0725-56-1220  
内線3241



## しごとしょうかい ほけんし 仕事紹介「保健師」

みなさん！看護師でなく保健師って知っていますか？

保健師は、地域の保健所や市町村の保健センターなどで、子どもからおとしよりまでの健康を守る仕事をしています。それぞれの人の生活や健康状態を聞きながら、いっしょに工夫できることを考えていきます。

現在日本では、4万人の人が保健師の資格を持って働いています。

では、母子医療センターにいる保健師がどんな仕事をしているのか少し紹介しますね。

センターには少し早く生まれたり、生まれたときの体重が小さかった子どもさん、いろんな病気をもつ子どもさんが通っています。お母さん・お父さんは子どものことを思い、悩んだり心配したりします。そんな時に保健師は、お母さん・お父さんから話を聞き、いっしょに育児の方法を考えて、心配が少なくなるようにしています。

また、入院中の子どもさんがお

うちにもどり生活できるように、地域の保健所・保健センターと連絡をとりながら、地域の保健師と一緒に育児を考えて応援します。

育児はいろんなやり方があり100%正解があるものではありません。母子医療センターの保健師がお母さん・お父さんに話す内容が役に立ったのかどうかいつも気になることです。

お母さん・お父さん・子どもさんが笑顔でその後のことを話してくれると、とても嬉しくなります。

(地域保健室 酒井 昌子)



### 大阪府立母子保健総合医療センター基本理念

1. 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
2. 患者さん中心の、相互信頼の立場に立った、質の高い医療を行います。
3. 地域の保健医療機関と連携して、母子保健医療を推進します。
4. 母子に関する疾病の原因解明や、先進医療の開発研究を進めます。



## がんばり屋さん

## Y・Kさん

私は小学3年生のときに急性骨髄性白血病と診断され、某病院に緊急入院し、化学療法を行いました。あまりよくならず、小学4年生のときに母子医療センターに転院し、骨髄移植を行いました。骨髄移植では腹痛などの副作用がありましたが、弟がドナーになってくれたので他に異常はなく順調に治りました。辛い時期もありましたが、楽しい思い出には勝りません。それは、親切なお医者さんや看護師さん、院内学級の先生方のおかげだと思っています。私の入院生活を思い出すと、みんなに支えられた楽しい思い出ばかりが思い出されます。ともに病気と闘っている友達やそのご両親を集めてドミノ大会を行ったり、自分なりに楽しんでいました。

完治とされ、今まで隠されていた病名を両親から告知され、落ち着いたところで、何か出来ることはないかと思ひ、今年の7月から私のお世話になった4階西棟でボランティアを始めました。受験生なので夏休みという短い期間でしかできなかったのですが、たくさんのお話を学んだ充実した日々でした。治療中の子どもたちとおもちゃで遊んだり、おままごとをしたり、楽しいボランティア活動でした。

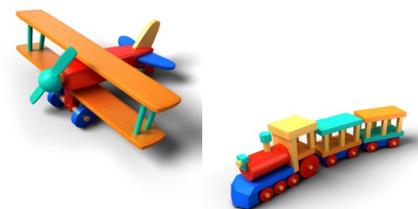
子どもたちの中には、最初は私を見て看護師の研修生だと誤解した子もいましたが、私がかつて同じ病院の同じ病棟で同じような病気で入院していたことを話すと、驚きと親しみを込めた表情になり、質問をしてきました。



「退院してどのくらいで薬とれた？」  
「おねえちゃんもIVHつけた？」  
「学校行く時髪の毛どうした？」  
などさまざまです。私は入院していた時の写真を見せながら、その質問に答えます。それは私にしかできないアドバイスだと思い、私の経験を通して解決していきました。一番うれしかったのは、ご両親たちに「私の存在だけでも励みになる」と言われたことでした。その時、私はボランティアをしてよかったですと思いました。

ホスピタル・プレイ士※という病院での遊びの専門家がいることをご存知ですか？ボランティア活動中に、実際に母子医療センターで勤務されている後藤さんにお話を聞くことができました。ホスピタル・プレイ士は、治療中の子どもたちの不安を取り除くために、絵本やぬいぐるみなどを使って、どのような方法で治療を施すのかを教えたりもされているそうです。しかし、海外で資格を取得しなければならないそうです。

私が入院していた時は、ボランティアさんは年に何回かしか来ていなく、病棟保育士さんもいませんでした。心のケアをしてくださる人がいてくれると、子どもたちは癒やされ、ご両親の負担も軽減すると思います。私は、ホスピタル・プレイ・スペシャリストのような専門家を多くの病院に導入し、身体的にも精神的にも安らげる病院を増やす仕事に自ら携わりたいと思っています。



※院内名称

ホスピタル・プレイ・スペシャリスト  
とチャイルドライフ・スペシャリスト  
の総称



### 募集中

がんばり屋さんのコーナーでは、登場して下さる方を募集しています。母子医療センターで治療を受け、現在各方面で頑張っている方をご紹介ください。自薦・他薦は問いません。

詳しいことは、母子医療センター企画調査室までお問い合わせください。

TEL : 0725-56-1220  
(内線3241)

E-mail : kikakusi  
@mch. pref. osaka. jp

## 診療科紹介 整形外科

### 【整形外科とは？】

読者の皆さんには、循環器といえば心臓血管のことが、消化器といえば胃腸などのことがすぐに思い浮かべられることだと思います。では、“**運動器**”という言葉をご存知でしょうか。骨、関節、筋、腱、神経など、**体を動かすために働く臓器**のことですが、比較的最近になってできた言葉なので、いささか耳慣れない印象をもたれる方も少なくないのではないのでしょうか。「**整形外科**」は、“**運動器**”を担当する診療科です。母子医療センターの小児外来は新生児と小児を対象としていますから、わたしたちの整形外科に通っておられる患者さんは、「**運動器に障害を持つ新生児と小児**」です。名前の最後に外科とありますが、整形外科で実施される治療には**手術以外にも投薬、リハビリテーション、義肢装具**など多くの方法が含まれています。わたしたちは、個々の患者さんにとって最適な治療方法を選択して実行することで、患者さんの**運動機能**を改善し、生活上の不便を解消することに取り組んでいます。

### 【運動器疾患とは？】

新生児と小児の運動器疾患とは、具体的にはどのようなものなのでしょうか？代表的なものとして、手足の先天異常（多指症、合指症、多合趾症など）、先天性股関節脱臼、先天性内反足、先天性筋性斜頸、分娩麻痺（新生児腕神経叢損傷）、骨系統疾患（先天的な原因による四肢・脊柱の短縮・変形）などがあげられます。これらのうち**分娩麻痺**や**先天異常**、**骨系統疾患**は発生頻度は決して高いものではありませんが、いずれも専門的な診断と治療を必要とするものです。当科の特徴のひとつは、**分娩麻痺**や**先天異常**、**骨系統疾患**の患者さんが数多く全国から訪れていることだと思います。また、1991年の当科開設時に、初代部長として就任された安井夏生先生（現、徳島大学運動機能外科（整形外科）教授）が日本に**イリザロフ法**を導入したという経緯もあり、わたしたちは**仮骨延長術**（手術室で麻酔下に骨を牽引して延長するための機械（創外固定器）を取り付け、人工的な骨折を作り（骨切り）、術後に骨折が治癒する過程で生じてくる未熟な骨（仮骨）をゆっくりと牽引することで骨を延長する方法）を応用した**外科的な四肢の機能再建**を得意としております。疾患個々の詳細については、母子医療センターのホームページをご覧くださいいただければと思います。

### 【骨系統疾患とは？】

骨系統疾患というのは、運動器の成長に関わる遺伝子の異常によって起こる障害を主な症状とする多くの先天性疾患の総称です。運動器の成長障害はさまざまな機能障害を生じます。例えば軟骨無形成症の患者さんは四肢の骨が非常に短いことが特徴です。四肢が短いために切符やジュースの自動販売機に手が届かない、下肢が短いために椅子に座れない、腕が短いために尻や足に手が届かない、といった不便があるようです。わたしたちは上述の仮骨延長術を応用して四肢の骨延長を行い、不便の解消を図っています。同様の方法で、脚長差（下肢の長さが左右で異なるため歩行障害や側弯の原因になります）や複雑な四肢の変形を矯正しています。

### 【母子医療センターの整形外科】

わたしたちは、2名の日本整形外科学会認定整形外科専門医（部長、副部長）、2名の常勤医師（診療主任、医員）、1名のレジデント、3名の理学療法士、2名の作業療法士、以上の合計10名で新生児と小児の診療にあたらせていただいております。

以下はわたしたちの**週間スケジュール**です。

- 月曜** 午前：外来（予約制で原則的に初診患者さんを診察します）。  
午後：手術、リハビリ診察（予約制）。手術予定症例および入院患者さんの症例検討会。終日：リハビリテーション（予約制）。
- 火曜** 終日：手術。終日：リハビリテーション（予約制）。
- 水曜※** 午前：外来（予約制で原則的に再診患者さんを診察します）。  
午後：装具診察（予約制）。終日：リハビリテーション（予約制）。
- 木曜** 終日：手術。終日：リハビリテーション（予約制）。
- 金曜※** 午前：外来（予約制で原則的に再診患者さんを診察します）。  
午後：リハビリ診察（予約制）。終日：リハビリテーション（予約制）。

※義肢・装具は、水曜と金曜に処方・調整しています。

### 【お願い】

わたしたちの悩みのひとつとして、予約時間どおりに外来診察が進まないことがあげられます。予約外の患者さんが緊急の用事で来られた場合や、難解な疾患を持つ患者さんが初診で来られた場合、複雑な処置を要する再診患者さんの来院日が重なってしまった場合には、どうしても他の予約患者さんの待ち時間が長くなりがちです。個々の患者さんに最善の診療を提供できるよう努力いたしますので、どうぞご理解ご協力くださいようお願い申し上げます。



（整形外科 松井 好人）



地方独立行政法人大阪府立病院機構  
大阪府立  
母子保健総合医療センター



〒594-1101  
大阪府和泉市室堂町840  
電話 0725-56-1220(代)  
Fax 0725-56-5682

ホームページもご覧ください。  
<http://www.mch.pref.osaka.jp>

## センターからのお知らせ

### 府民公開講座を開催しました

11月29日（土）に府民公開講座を開催しました。今回のテーマは、「トータルケアの実現に向けて一小児の在宅医療を考える」で在宅医療を取り巻くさまざまな観点からの情報を府民の皆様にお伝えしました。当日は100名を越える府民の皆様にご来場頂き無事終了することができました。この場を借りてお礼申し上げます。

なお、当センターでは、毎年2回さまざまなテーマで府民公開講座を開催しております。開催のお知らせは広報誌「母と子のにわ」紙面上をはじめとして、当センターホームページ、センター内ポスター、近隣の広報誌、タウン誌等でお知らせいたします。また、取りあげてほしい内容等がありましたら、当センター企画調査室までご連絡下さい。今後の企画の参考にさせていただきます。



### 母性棟の耐震改修工事が終わりました

平成19年10月から平成20年10月までの工期により実施しました耐震改修工事が、皆様のご理解とご協力のもと工期内に無事終了することができました。

本耐震工事は、平成17年度に基本設計、平成18年度に実施設計、平成19年度から工事というスケジュールで実施されましたが、実施主体である大阪府としてもかつて経験したことのない工事でした。このため、工事施工業者を決めるに際し、単なる金額による入札ではなく、提案によるコンペ方式が採用されました。

その結果、騒音のより少ない工法が採用され、例えば、壁を壊し鉄筋を組みなおす作業において、壁にドリルで穴をあけ壊していくのではなく、壁に多数の小さな穴をあけ、その穴を壁の弱点部分とし、音の少ない小さな機器で破壊する方法が採られました。

このような工法をたよりに、地階から、1階、2階、3階へと工事が進めら

れましたが、予想外のできごととして、まず「ホコリ」が問題となりました。これは開設以来の27年間積もりにも積もったもので、雪のごとくふりそそぐといったこともありました。

また、「音の影響範囲」が予想以上に及んだケースもあり、地下の工事の音が、1階部分で電話の話し声がききとれない程に響いたり、建物の強度を増すために外壁に鉄筋を設置する工事の際、その近くの病棟にかなりの音が伝わりご迷惑をおかけするといったことがありました。

この他にも様々なことがありましたが、医療機関という衛生管理に最も気を使う環境のもと、工事が工期内に無事、大きな事故なく実施できたのもひとえに患者さんや関係者のご理解とご協力によるものです。本当にありがとうございました。

(施設保全グループ 山路 哲也)

### クリスマス会のお知らせ

母子医療センターのクリスマス会を開催します。

とき：12月19日（金）  
午後3時から  
ところ：1階アトリウム

今年のクリスマス会は  
何があるかな？  
プレゼントもあるので  
お楽しみに！！

